

安倍首相の靖国公式参拝策動に反対するとともに、日本軍「慰安婦」連行に強制はなかったとする安倍首相の発言撤回と謝罪を要求する決議

安倍首相は、すきあらば靖国神社公式参拝を強行しようと策動している。靖国神社は、天皇のために戦死した兵士たちを祀る神社であり、天皇制と侵略戦争を肯定する精神的支柱としての役割を果たしてきた。

2006年に初めて首相になった時と同様に、安倍首相は、就任して以降、国際的な批判を回避するため、日本の侵略戦争に対する個人的な見解を表明することは避け、首相就任後の靖国神社への参拝への態度は曖昧にしている。だが、靖国神社への公式参拝を実現したいという、天皇主義者であり侵略戦争の肯定者である安倍首相の本音は明らかである。日本帝国主義のアジア侵略戦争を肯定し美化する安倍首相の靖国公式参拝策動を強く弾劾する。

同時に、安倍首相は、日本軍「慰安婦」問題に対して、一貫して、強制連行はなかったと主張し、執拗に、そのことを国際化しようとしてきた。また、安倍首相は日本軍「慰安婦」問題を日本の教科書の記述から削除するべく策動を続けてきた。安倍は、最初の首相在任中の2006-2007年には、「慰安婦狩りのような強制性、官憲による強制連行的なもの(安倍はこれを「狭義の強制性」と言っている)があったということを証明する証言はない」などという持論を展開して、「慰安婦」被害者の心を深く傷つけてきた。首相就任と共に、安倍首相は、この問題についても国際的批判を回避するため、曖昧な態度をとり続けている。しかし、安倍首相の本音は、この面でも明白である。日本軍「慰安婦」をめぐる強制はなかったと主張し、アジア諸国地域で日本軍の性奴隷にされた犠牲者が要求する国家謝罪と補償要求を抹殺することにある。私たちは、日本政府に対し、日本軍「慰安婦」問題への国家責任を認め、被害者への謝罪と補償を実行することを強く求める。

安倍首相の就任は、日本軍「慰安婦」問題を否定しようとする女性差別者・排外主義者の活動を活発化させている。日本では、この間、日本軍「慰安婦」問題の解決をもとめてたたかっている人々への襲撃が激化している。連動して、日本の警察は、日本軍「慰安婦」問題に取り組む人々への弾圧も開始している。こうしたことを許してはならない。

私たちは、安倍首相に要求する。日本軍「慰安婦」問題の真の解決のために、明確な国家謝罪と補償を行うこと、自ら行ってきた日本軍「慰安婦」問題に関する反動的で悪意に満ちた言説を撤回し謝罪すること、靖国公式参拝策動を中止し、アジア侵略戦争に対する明白な謝罪と被害者への補償を行うこと、以上、決議する。

2013年3月2日 国際会議参加者一同